

令和元年度

バリアフリー推進勉強会

令和2年3月

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団

目次

【東京会場】

第 57 回 令和元年 10 月 6 日(日)

2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けて

海外からの補助犬受け入れシンポジウム…………… 1

第 58 回 令和元年 12 月 6 日(金)

災害時における障害者支援を考える 映画「星に語りて

～Starry Sky～」上映会 & クロストーク(バリアフリー上映)……………3

【関西会場】

第 10 回 令和元年 9 月 2 日(月)

精神障害当事者に聞く日常生活と移動～優しい公共交通機関を目指して～……………4

第 57 回バリアフリー推進勉強会

<テーマ:2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けて 海外からの補助犬受け入れシンポジウム>

1 概 要

- 1.1 日 時：2019（令和元）年 10 月 6 日（日）13：30～16：30
- 1.2 場 所：京王プラザホテル 4 階 錦
- 1.3 共 催：日本身体障害者補助犬学会第 12 回学術大会
- 1.4 講 師：高橋紀夫氏（国土交通省 総合政策局安心政策生活課バリアフリー対策室長）
秋山仁氏（厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 企画課
自立支援振興室福祉用具専門官）
小嶋規純氏（農林水産省 動物検疫所 感染症対策専門官）
金井政紀氏（公益財団法人 日本盲導犬協会 ユーザーサポート部 副管理長）
山本真理子氏（帝京科学大学 生命環境学部 アニマルサイエンス学科 講師）
高柳友子氏（社会福祉法人 日本介助犬協会 専務理事）
中村さおり氏（株式会社京王プラザホテル 宿泊部・客室支配人）
田中幸司氏（成田空港株式会社 営業部門 CS 推進部
営業企画推進室 マネージャー）
黒沢直子氏（日本航空株式会社 コンタクトセンター 企画部 サポート室
プライオリティ・ゲストセンター担当）
室谷正裕氏（京成電鉄株式会社・常務取締役 鉄道本部長）
野口浩一氏（株式会社オリエンタルランド CS 推進部
CS コミュニケーショングループバリアフリープロデューサー）
- 1.5 参加者：約 100 名（日本身体障害者補助犬学会第 12 回学術大会参加者含む）
- 1.6 内 容：

開催概要

はじめに高橋氏より『国土交通省としての取り組みについて』、秋山氏より『海外から渡航してくる補助犬使用者への対応ガイドライン』、小嶋氏より『海外からの補助犬に関する検疫の実態』と題して講演があり、国土交通省、厚生労働省、農林水産省のそれぞれの取組等について紹介があった。

続いて、金井氏より『海外からの補助犬受け入れについて』、山本氏より『海外における補助犬事情について』、高柳氏より『海外から渡航してくる補助犬についての課題』

と題して、補助犬の受入れ状況や課題等についての講演があった。

次に、海外からの受入れ事情と事例として、中村氏より宿泊施設での事例、田中氏、黒沢氏、室谷氏より旅客施設での事例、野口氏より商業施設での事例について紹介があった。

第 58 回バリアフリー推進勉強会

<テーマ:災害時における障害者支援を考える 映画「星に語りて ～Starry Sky～」上映会 & クロストーク(バリアフリー上映)>

1 概 要

- 1.1 日 時 : 2019 (令和元) 年 12 月 6 日 (金) 14 : 00 ~ 17 : 30
- 1.2 場 所 : 国立研究開発法人産業技術総合研究所 臨海副都心センター別館 11 階
- 1.4 コーディネーター : 石塚裕子氏 (大阪大学)
- 1.5 登壇者 : 松本勳氏 (映画監督)
戸羽太氏 (陸前高田市長)
藤井克徳氏 (JD 代表 きょうされん専務理事
陸前高田市ノーマライゼーション大使)
黒澤司氏 (日本財団)
- 1.5 参加者 : 50 名
- 1.6 内 容 :

開催概要

はじめに東日本大震災を背景に、被災した陸前高田市の障害者と支援者たちの活動を描く映画「星に語りて～Starry Sky～」を上映した。この映画は、震災を背景に、障害者向け共同作業所の連絡会である「きょうされん」が結成 40 周年を記念して作成したものである。

上映会後には、『「障害者が消えた」を繰り返さないために』と題して、石塚氏のコーディネートによりクロストークを行った。藤井氏からは、映画の企画意図や完成に至るまでのきょうされんの取組み、松本氏からは、「星に語りて」を監督して感じたことや映画を観る人に伝えたいことについての話があった。また、戸羽氏からは陸前高田市の現状や当時から積み重ねてきた取組みについて、黒澤氏からは各地の災害支援の現場での活動や現場での障害者支援の実態について話題提供が行われた。

第 10 回バリアフリー推進勉強会 in 関西

<テーマ:精神障害当事者に聞く日常生活と移動

～優しい公共交通機関を目指して～>

1 概 要

1.1 日 時：2019（令和元）年9月2日（月）15：00～17：40

1.2 場 所：大阪科学技術センター 4階 401号室

1.3 講 師：船橋裕晶氏（自立生活センターリングリング・ピアカウンセラー）

吉川ひとみ氏（社会福祉法人ぷろぼのテクノパークぷろぼの・高の原事業所）

1.4 コーディネーター：三星昭宏氏（近畿大学・名誉教授）

1.5 コメンテーター：石塚裕子氏（大阪大学大学院

人間科学研究科未来共創センター・特任講師）

1.7 参加者：106名

1.8 内 容：

船橋裕晶氏「精神障害者にとってのバリアフリーとは？」

（以下、講演概要）

■公共交通機関（観光）の利用者の多様化

精神障害はとても多い障害です。鬱、双極性障害、統合失調症を三大精神病と言います。

鬱は、気分が凄く落ちてしまいます。ただ落ち込むだけじゃなく、嫌なイメージばかり浮かび、自分自身を責めてしまったりします。結果的に生きているのがしんどいと思ひ、自殺に至る人もいます。自殺までいかないにしても、体が全く動けなくなり、顔を洗う、トイレやお風呂に行くのさえもしんどくなってきます。こういう状態が長く続き、そして、良くなって来たり、また悪くなったりすることもある。季節によっても変化があります。低気圧や台風が来てもそうです。

双極性障害は、鬱時と躁状態があります。人によって異なるが、躁状態では身体が何だか動けてしまう。のめり込んでしまい、色んなことができってしまう。寝ないでも色々なことができる。幸せ感でいっぱいになってしまうという人がいます。或いは、鬱状態を持ったまま、すごく動いてしまう方もいる。躁状態が上がれば自分ではなかなか止められません。

統合失調症のよく言われる症状は、妄想、幻聴、幻視があります。幻聴は何か声が聞

こえてくる。僕が皆さんを見ていると、皆さん何かしゃべっているような気がして来る。色んな声が聞こえ、悪い事ばかり聞こえて来ます。

妄想では、テレビから誰かが出て来るような気がしてしまったり、電波によって操られていると感じてしまったりすることもあります。自分の中に起きている事と、実際の事との区別ができなくなってしまうような状況になってしまうこともあります。苦しく怖くなってしまった状態になり、酷くなると入院してしまいます。

その他にもたくさんの障害の種類があります。強迫性障害、解離性障害、PTSD（心的外傷後ストレス症候群）も挙げられます。一個一個の障害について理解するというよりは、このように色んな障害の人がいるということを感じておいて欲しいです。精神障害は誰もがなりえる障害です。僕も元は健常者です。精神障害者は日本に約 320 万人位いるとされています。統合失調症、パニック障害は 100 人に 1 人は罹る病気だとも言われています。新幹線の車両に 1 人か 2 人位はいる割合です。

■精神障害の特徴

見た目に分かりにくい事が第一に挙げられます。だから、誤解を受けやすいです。例えば、凄く不安になって来ると、話が止まらなくなって来ます。相手の返答を待たずに話し続けるので、相手は驚いてしまいます。また、急にイライラしてしまい、上手くコミュニケーションとれなくなって来ます。それから、暗そうに見えてしまい、それで、いじめの対象になりやすくなります。

発症時は、階段を上がって行くのも凄くしんどいです。知らない人から見ると「若いのに何でそんなにしんどそうな顔しているのだろう？」と言われることもあります。パニックになって暴れてしまうと、「あいつはヤバい奴だ」と言われることもあります。

薬をたくさん飲んでいっちゃう方もいます。薬の影響で、ふらつき、だるさ、眠気が出て、体がうまく動かなくなって来ます。動作がスローモーになったり、ろれつが回らなくなって来る感じがします。そういう時に駅員さんに何かを聞こうしても、上手く喋れないとか、逆に、不安だからたくさん喋ってしまい、駅員さんを逆に不安にさせてしまっているかも知れません。

見た目に分かりにくい障害ゆえに障害者として理解、認識されにくい。僕を見てなかなか障害者だということは分かりにくいと思います。分かりにくいので、本人も助けを求めにくいということがあります。見た目に分からないから、本人の努力が足りないとか、もっと頑張れと言われてやすいということがあります。

■望ましい対応とは

車いすに乗った人のサポートは、例えば段差があればスロープを付けるというように、

考えつきやすいです。では、精神障害の人のサポートをどうしたら良いだろうということが、本当に分からないと思います。

僕がかつて受けて良かった接遇があります。新幹線の中でパニック発作になった時のことです。離人感と言って、幽体離脱のような状態になり、新神戸駅到着後に地下鉄に乗れなくなったのです。改札を入った後、動けなくなってしまったのです。駅員さんに説明して、何とか駅を出たいと思いましたが、出してくれるか凄く不安になってしまいました。

その時に駅員さんがしてくれたことは、「大丈夫ですか？」と単純に聞いてくれただけでした。その一言の気遣いので、まず私は安心できました。それから、しっかり話を聞いてくれたことで、自分が尊重されていると、凄く感じることができました。人の話をしっかり聞いて貰えるということは、精神障害者にとってとても重要なことだと思います。

忙しい時もあると思いますが、私達から話しかけた時に、そっけなかったり、無視をされたりすると、余計に不安になってしまいます。出来るだけ、こちらに体を向けて、うなずいて、ちゃんと話を聞いて欲しいと思います。

その他に人からして貰いたいことに、話したことをメモにして貰うことがあります。凄く助かります。例えば、電車の時間を聞いた時に、それをメモにして貰って渡されるとホッとします。道順を示したマップで「ここです！」と、具体的な説明をして貰うと更に安心できます。

■安心できるツール、施設とは

ヘルプマークが最近出回って来ました。自分は見た目には障害者と分からないので、凄くしんどい時にヘルプマークが世間に認知されていると安心です。ベンチや休憩室がたくさんあると、しんどくてもちょっとずつ休みながら進んでいけるので安心します。調子の悪い時に、文字が読めない人がいます。だから、イラストやマークが付いていると安心するという声もあります。文字が大きいと更に安心します。ホームドアは、身体障害の方や視覚障害の方から必要性の声が上がる人が多いと思いますが、私達にとっても安心します。精神障害者の中には「飛び降りろ！」と言われていたような強迫観念がある方もいて、発作的に飛び込みそうになったりすることもあります。ホームは崖と一緒に危ないです。従って、ホームドアがあると私達は助かります。駅にコンシェルジュのようなスタッフがいて、声を気軽に掛けてくれると、自分達からも聞きやすいという意見もあります。

■移動のしやすい世の中に向けて

障害者割引という制度があります。私は、移動介助を使っている時があります。元気な時は一人分だけで公共交通機関を利用できますが、移動介助利用時は二人分の運賃を払う必要があります。これは障害を持ったゆえの出費です。差別解消法で言われる合理的配慮というものが、なされていない状況だと私は思います。

精神障害者は、一人一人症状が違います。例えば、切符を買うのに手伝って欲しいという人もいれば、教えてもらえれば手伝いはいらぬ人もいます。個室で休みたい人もいれば、個室は嫌だから皆がいる所が安心と言う人もいます。一人一人どういうサポートが欲しいのかは異なりますので、公共交通に従事する方々には、是非きちんと私達の話聞いて欲しいなと思います。

吉川ひとみ氏「移動の自由により人生が広がる～症状の不安定さを支える～」

(以下、講演概要)

■はじめに

私の障害は双極性障害です。昔は躁鬱病と言われていました。テンションが高い時期と、低い鬱の時期があるという病気です。約10年前の26歳頃に発症しました。色んな仕事を経て、今は自身の経験を活かして働きたいと思っている障害者を応援する、やりがいがある仕事に就いています。

■精神障害の症状

双極性障害Ⅱ型は、鬱と躁の状態が入り乱れる感じでやって来ます。体と心の状態が一致している時もあれば、ちぐはぐになっている時もあります。外見から分かりにくい病気だと言われていています。脳の中でミステイクが起こっています。例えば、脳から信号が送られても、意識がはっきりしない、情報処理などの知的な機能が働かなかったりします。例えば、駅員さんが言うことを覚えにくかったりします。また、五感が正常に動かなかったり、思考のプロセスに歪みが生じたり、感情・気分が不安定だったり、事実に対して不適切な感情や気分になってしまったりします。そういうことが脳の中で起こり、精神障害者の言動が変と周りから思われます。

具体的な症状です。軽躁状態はテンションが高くて活動的な状態です。本人は気分が良いのです。多弁になって相手を振り回してしまう、注意散漫になって事故や失敗をしてしまう、イライラして対人トラブルになってしまうなどの特徴があります。抑制が効かない無分別な状態ですから、社会的な信用を失いやすいです。性格とかモラルの問題と誤解されてしまう傾向がありますが、実は病気がそうさせているということを知って

て欲しいと思います。

鬱状態では、思考力や理解力が低下してしまいます。乗換でまごつき、駅員の話の聞いても理解できずに焦り、申し訳ない気持ちになります。また、急にパニック状態になり、涙が止まらず呼吸が上手くできなくなることもあります。一声掛ければ駅員さんも助けてくれるのだろうが、その一声が掛けられません。そして、疲れやすい特徴があったり、薬を飲んでいる方にありがちですが、喉が渇きやすい特徴もあります。

■精神障害者にある特徴

予期不安というものがあります。目的地に着いて駅構内が複雑だったらどうしよう、出口が分からなかったらどうしようと不安になります。駅構内の情報が不十分な時は余計不安になります。また、上にある路線図の運賃表示と、下にある券売機を、見比べ続けてしまうこともあります。

休憩スペースについて。その質、隣席との距離、そして、設置の向きも気になります。席がホームに向いていて、ホームに吸い込まれそうになるイメージを持ってしまいます。照明の明るさも精神障害を不安にするとも言われています。光の向き、照度も考えてデザインをして欲しいと思います。

感覚過敏です。電車のアナウンス、メロディ、乗って来た人の臭いで気分が悪くなってしまうことがあります。私の場合、電車の音が凄くうるさく感じて、いつも耳栓を付けています。このように自分を守らないといけないことがあることも知って頂けたらと思います。

弱冷車が1両しかないこと。冷房が強く感じます。精神障害の薬を飲んでいると、免疫力が低下して寒さに弱くなり、風邪をひきやすくなります。結構着込んだりします。

心理的なバリアを感じることもあります。精神障害を理解していないと、怖い、面倒臭い、扱いにくいと思われてしまいます。すると、それが相手方の態度に出てしまい、私達は凄くダメージを受けてしまいます。

乗客とのトラブルもあります。若いのに優先座席に座ってけしからんと、怒られることも精神障害者にはあります。そういう怖い目に遭うことも心理的なバリアです。

■バリアを解決するために公共交通機関に望むこと

精神障害者は、怖い、面倒臭いという思いを改めるためには、尊厳を持った一人のお客様だという認識を、もう一度持つことが大事だと思います。このような研修を定期的に行うことも大事です。正しい知識を得て活かし、それを現場に持ち込み、更にブラッシュアップする。現場で問題が起こった時には、専門家を呼んでケースを検討する。そして、同じようなトラブルは起こさないようにする。こういったことが必要だと思

ます。同時に、当事者と触れ合う機会も設けて欲しいと思います。

精神障害者を急かさないうで欲しいです。私達は緊張しています。考えがまとまりません。言葉が出て来ません。同じ話をくり返してしまいます。思っていることと違うことを言うてしまうこともあります。

これを改善するには、現場の方にはまずリラックスした雰囲気を作て欲しい。忍耐強く聞いて欲しいです。思い込みで話を進めないで、具体的に「はい」「いいえ」で答えられる質問の方が、思考が滞っている相手に対しては、有効なことがあります。

なぜ精神障害者は駅員の説明を聞いても理解できないのか。駅員さんは業務的で早口で言うことが多いと私は感じました。呪文みたいに聞こえることがあります。従って、一文を短く、難しい言葉は使わないで欲しいと思います。

他の乗客とのトラブルを、私は経験しています。鬱の時は行動が鈍く、他の乗客がイライラして怒て来ることがあります。そういう時は、他の乗客の些細な言動が気になって、心が落ち着かなくて、しんどくなってしまうことがあります。乗客同士のトラブルに駅員が遭遇した際は、きちんと関係を調節し、周りの人に説明をし、障害のある人にも理解できるように説明して欲しいと思います。精神障害を持っている人に対しては、落ち着くまで待つ。そういう根気強さも必要だと思います。

パニックに遭遇した際の対応です。パニックは 30 分前後で終わるので、駅員としては、冷静になって楽な姿勢で息を吐くように相手に伝えて下さい。その後、静かな場所に誘導します。更に、保護者や支援機関へ連絡して下さい。このような手順を覚えて下さったら対応できると思います。

■ヘルプマークについて

ヘルプマークを付けていることで、自分が弱者であることをさらし、ひょっとして攻撃の対象になるのではないかという不安があります。また、裏面に記載された個人情報が悪用されるのではないかという心配もあります。

ヘルプマーク保持者らしさについてです。ヘルプマーク保持者は障害者らしく、しんどそうに座ってて欲しいという感情が、世間にはあるのではと想像してしまいます。これは今後どういふふうになっていくのだろうと思います。席を譲るなどの思いやりのある行動を、皆が求めているとは限らないですが、ヘルプマークを付けている方を見かけた時には、自分が主体的に助けた方がいい、そういうふうにして頂けるようになることが大事だと思います。

■最後にお伝えしたいこと

見守りについてです。障害者だけではなく、どのお客様に対しても、気づきや変化を

感じて欲しいです。その変化の様子を観察することによって、最適な関わりを導くことができると思います。その観察と関わりは、次の心掛けから生まれます。研修を受けていること、必要な配慮を理解していること、尊厳を守ったコミュニケーション力があることです。

そして、関わりの最後には「ありがとうございます」という言葉を付けて下さい。精神障害者も頑張って自分のことを説明したり、相談したりしています。それを労う感じで「ありがとうございます」、一緒に問題を解決して「ありがとうございます」と言われると、精神障害者も凄くエンパワーメントされた気持ちになります。こういったコミュニケーションを心掛けて頂けたらと思います。

石塚裕子氏「まちづくりの担い手としての当事者～聴き書きの協働実践を通じ～」

(以下、講演概要)

■はじめに

西日本豪雨の被災地で復興の街作りのお手伝いをしています。一緒に協働している相手が精神障害の方々のグループで、本日のテーマに関連があるのではないかとということでお話させていただきます。

現地で息の長い支援活動をできる方を探していたところ、NPO 法人岡山マインド「こころ」代表の多田さんに出会うことになりました。「こころ」は、精神障害当事者が主体となって作った作業所で、グループホーム、就労支援などを行っています。

真備町の被害状況についてです。住まいの空間が殆ど水没し、51 人もの方が亡くなりました。その 8 割から 9 割は高齢者、特に障害がある高齢者という非常に厳しい現実がありました。例えば足の不自由な高齢者の方が 2 階に逃げられず、1 階で亡くなった方が 8 割以上を占めていました。20 代のお母さんと 5、6 歳の女の子の親子が亡くなった事例がありました。知的障害があった方々で、平屋に住んでいた為、家の中では逃げることができずに亡くなりました。このような大変な状況は、阪神淡路大震災から 25 年経っても変わらず、同じ失敗がくり返されているという現実です。

その原因は、当事者主体で物事が考えられずに街が作られ、支援体制が組み立てられていることと、私自身は考えています。真備町の復興では、様々な当事者が主体になった街作りをお手伝いしたいと今奮闘しているところです。このような中で、「こころ」と真備町の福祉事業者の連絡会の方々をはじめ、さまざまな人を巻き込んで、人の復興と街の復興に挑戦する取り組みを支援しています。

■真備での取組み

その幾つかをご紹介します。一つは「まちコン」と言われる被災者が、月に一回集まり、お互いの元気を確認し合い、情報交換をする場を精神障害当事者の方が主体となって作っています。

二つ目は復興ビジョンの提案です。倉敷市では2019年1月に復興計画案が公表されましたが、その前に高齢者、障害者を中心に601名もの方の声を集めて、市に提出する活動を行いました。ここで掲げた理念は、お互いに復興して行くということと、ダイバーシティを実現することを盛り込んで、障害当事者と支援者から提案しました。

三つ目は、真備への想い数珠つなぎプロジェクトを去年11月から始めました。これはリレー形式で被災者一人一人の声を聞き取り、ニュースレターにして他の被災者に伝えるという活動です。「こころ」の仲間の一人である矢吹さんという方と一緒に聞き取りをし、今現在20人目まで続いています。

一緒に活動して気付いたのは、障害がある当事者は、人の話を聞きに行く機会、立場が少ない中で、統合失調症を患ってらっしゃる矢吹さんは、自分自身のご苦勞をされているので、人の弱さ、辛さに凄く気付く力をお持ちです。なかなか言葉にできない言葉を聞き取る才能を持っていらっしゃって、障害当事者として、被災当事者として、それから、地域住民として、住民の声を聞きとる大切な役割を果たしています。

このような活動を通じて、まちづくりの担い手として多様な当事者に関わっていただくことは非常に大切と思っています。今回の取り組みのポイントは、参加者ではなくて主催者として関わることです。交通バリアフリー基本構想会議等に当事者参加ということで、様々な当事者に参加いただきますが、それはあくまでも客体として参加しているのであって、その人達が主体的に何かやっていくというところまでは、まだまだ至っていないと思います。意見を聞かれるばかりではなく、聞く側に立つことで、自分自身が凄く成長していると感じると、矢吹さんはおっしゃっていました。

■当事者が復興支援に関与できる原動力とは

何故そういうことが真備ではできているのか。「こころ」というグループがあり、そこに我々外部の者が仲間に入れていただき、一緒に行動しています。矢吹さんが今年1月の講演でお話されたことを紹介します。「災害があり不安もあったが、災害後、地域の人達との関係が密になった。挨拶程度だった人が車に乗せてくれたり、話しかけてくれたりする機会があった。復興ビジョンを提案したり、インタビューをして真備の街に帰って来てほしいという声を聞く中で、障害があろうが高齢であろうが、子供であっても、自分達力で街を復興できると思えるようになって来た。只、今は沢山の仲間が被災のストレスで調子を崩している。でも、それを支えながらこれからも交流会を開催し

て行く。街作りへの希望が自分を支えてくれている。」というお話をされています。

■インクルーシブな社会を目指して

このような経験を通じて、まちづくりには様々な可能性、役割があると私は思っています。作業療法の中で意味のある作業という言葉があります。それは、何か疾患を受けた人達が、生活や仕事に戻るために作業療法を受けますが、その作業には意味がなくてはいけない。その意味というのは、その人達が自ら意思表示した作業であること、その人の生活史の中にある作業であること、それを行うことで新たな自分に繋がる作業であること、というのが意味のある作業とされています。まさしくこの意味のある作業というのは、まちづくり活動の中に沢山あると思います。まちづくりの中に多様な人が参加し、主体となって活動できることは、多様な人の活躍の場をつくる、それがまちづくりではないかと改めて感じています。

しかし、まちづくりに当事者が主体的に関わろうと思っても、一人で参加できるのかというと、そうではない。参加可能な環境をつくっていく必要があります。つまり、インクルーシブな状況をつくること。インクルーシブとは、大多数の人達が、少数派を入れて上げるみたいな概念で捉えられることもありますが、そうではなく、少数派は少数派の人達で仲間と言えるような小グループをつくり、それぞれの小グループが有機的に連帯していく。これがインクルーシブな状況だろうと思っています。ただ、その仲間のカテゴリーと呼ばれるものは、永遠に固定化したものではなく、場面、場面に応じてそのカテゴリーが変わる。例えばまちづくりで言えば、観光を考えている時はAさんが中心となり、環境を考える時はBグループが中心になってというように、まちづくりには様々な課題やテーマがある中で、それぞれの得意分野で活動できるような、緩やかな連帯の下で、複雑に動いている状態が、多分、様々な当事者がまちづくりに活動できるインクルーシブな社会ではないのだろうか考えています。

【主な質疑応答】

(質問者)

パニックに陥った方への対応はどのようにすればよいですか。

(回答者・吉川氏)

パニックと言っても怒りを表出している、涙を流して呼吸困難に陥っているなど、色々な形があると思います。まずは、係員の方が冷静になる事です。係員が焦ると、本人もなかなか落ち着けなく、状態が悪化するとまでは言わないですが、いい状況にはなかなかならないと思います。先ほど講演で申しましたようにパニックは30分位で収まり

ます。本人もパニックの対処法を知っている場合と知らない場合とあります。出来れば腹式呼吸ができるようにしてほしい。胸を折って膝の中に頭を入れる。これで深い呼吸ができるようになります。この体勢を整えてあげて、本人は吸おうとするので「息を吐きましょう」と声かけです。

そして、落ち着いて来たら別室に移動したいのか、人がいない所に行きたいのか、いる方がいいのか、本人の望むことを確認します。また、どこか連絡してほしい所はありますかと、聞くことも大事かと思えます。また、怒りを表出されている方、周りに危害を加えそうな方の場合は、「こちらで落ち着かれますか」と優しく誘導したり、場合によっては警察を呼ぶことになっても仕方がない場面も経験した事があります。

(回答者・船橋氏)

僕はよく動悸が酷くなったり、不安になって周りが気持ち悪く見えてきたり、居ても立っても居られなくなったりします。過呼吸になる人もいます。

私は特急が苦手です。どちらかという、各駅停車がいいです。何故かと言うと、しんどい時すぐ降りられるからです。今日新快速でここまで来ました。三宮の次は芦屋、そして、尼崎、大阪に止まります。早くていいのですが、芦屋までの間が随分長いのです。で、凄く降りたいのです。でも、降りられないのです。調子が悪い時は普通に乗ったりします。

(質問者)

駅員等とのヒューマンコミュニケーション、或いは、昨今タッチパネルが主流となった券売機等の機器類の操作性等について、事業者に望むことはありますか。

(回答者・吉川氏)

現場の人が疲弊しないために、課長さんだったり、社長さんなどのマネジメントする側が、考えて動いて、風通しのいい職場作りをしていただけたらと思います。心に負荷が掛かっているスタッフであったり、乗客でないように、時代ですのでそこを見直していただきたいと思います。

機器のことですが、それは人によると思います。スマホ世代の人だとタッチパネルはできると思うが、スマホを持っていなくて、それこそ入院で出て来た浦島太郎状態の人だとタッチパネルは分からないと思います。どうしたらいいのかと言うと、駅員さんがいてすぐ聞きやすい環境であるといいと思います。また、切符を買う手順を券売機の横に書いておくことも考えられると思います。今あるものを全部変えてしまわなくても、何か補助的なものを使って皆に分かり易くすることを、できるんじゃないかと思います。

(回答者・船橋氏)

その機器に関しては、人によって違うのです。僕はタッチパネルをできます。1年間病院で過ごしていたら、色んなことができなくなるし、周りの世界がすごく怖くなります。人も怖くなります。スマホいじっている人を見るだけで、自分がまた通報されるんじゃないかという不安になったりします。

そういう人が、タッチパネルだけだと混乱するのだと思います。視覚障害の方にとってもタッチパネルは使いにくいと思います。だから、ボタン式券売機を1つは作っておいてほしいということもあります。

駅名表示について、知的障害の方の講演で、漢字だと分かりませんと聞きました。漢字にフリガナを付けるのが良いかと思いますが、付けるのが困難な場合は、平仮名でよいと僕は思います。

(質問者)

サインに関して更に要望ありますか。

(回答者・吉川氏)

ピクトはたまに分からないことがあります。ピクトだけの表示というのも、ちょっと私としては心細い気がします。斬新なピクトを使う時は、もしもの時の為に、下に情報を書いておいてほしいなと思います。

遅れによる振り替え輸送に関する情報について、掲示板に一覧表で掲示するというのは、分かり易いので、どの会社でも取り入れて欲しいと思います。

(回答者・船橋氏)

車いすマークやトイレマークは、もうみんな知っていて分かりやすいです。でも、ピクトをネットで探していて、受付のマークだったのですが、意味が分かりませんでした。突然そういうものが出てくると、全く分からないことがあります。新しいものに対しては、仮名表示があると分かりやすいと思います。

(質問者)

道路の標識について、ご意見はありますか。

(回答者・吉川氏)

高速道路の表示で、車と歩道の間が分からなくなり、高速道路に入ったことがあります。私自身は、免許を持ってないので、勉強しないと標識関係は分かりません。精神障害者の中では、その親が子供に対して、車の免許を取らない方がいいよと止める人が多く、標識について分からない人は、結構多いと思います。

(回答者・船橋氏)

私は運転免許を持っています。「凄い」と言われました。健常者時代に取りました。パニックになるので、電車に乗らず、車に乗っている人もいます。車の方が自分の好きな時に止められ、どこでも降りられるので良いという理由で車を運転するのだと思います。

(質問者)

音情報について。駅では様々なアナウンスが流れます。それに対して何かストレスになっているということはあるでしょうか。

(回答者・吉川氏)

車内では、電車の運行情報などの大事な音声情報と、広告宣伝に関する音声情報があって、それら音声情報をごっちゃになって、情報の取捨選択ができなくなることがあります。ここは広告が流れないゾーンのような区分をホームに作って貰えたら、大事な情報だけ聞けるから有り難いなといつも思っています。

(回答者・船橋氏)

私自身は、調子によります。自分がちょっとしんどい時には色々な音が気になって来ます。全ての音が怖くなったりしたりします。だから、サイレントゾーンがあったら楽だなと思います。

2 配布資料

次のとおり。

精神障害者にとっての バリアフリーとは？



自立生活センターリングリング
船橋裕晶



精神障害の種類



精神障害は特別の人がなるのではなく、**誰もが発病する可能性がある**

- ▶ 精神病患者は全国に**320万人**
- ▶ うつ病など 全国に**104.1万人**
- ▶ **双極性障害** 数十万人
- ▶ 統合失調症は全国に**79.5万人** **100人に1人**はかかる病気
- ▶ パニック障害は100人に一人かかる。**新幹線の車両に1人か2人**

思っている以上に
精神疾患の人は多く
いる

(厚生労働省調べ)

見た目にわかりにくいので
障害と認識されない

精神障害の特徴



どういう人だか分からないので
誤解を受けやすい



怖い

- ▶ 症状：幻聴、幻覚、幻視、妄想、気分の低下、判断力の低下
- ▶ 服装がだらしない、コミュニケーションがうまくとれない
- ▶ 薬の副作用：フラフラする、眠気、だるい、身体が上手く動かない、
- ▶ 手が震える、動けなくなる、太る

お前なんか
価値ない！
死ねばみんな
うれしい

幻聴



組織が俺を
狙っている

妄想

例えば統合失調症の場合
どう感じているか？

エドヴァルト・ムンク作品
『叫び』



問題 この人は何をしているのでしょうか？

- ▶ 大きい音が怖い
- ▶ 人の視線や行動が怖い
- ▶ 気になるのでソワソワして動き回る
- ▶ 怖いので人に思っていることみんな話まくる
- ▶ 怖いから叫んだり、大きな声を上げる
- ▶ 物凄く疲れる
- ▶ 独り言
- ▶ 妄想や幻聴
- ▶ 引きこもる
- ▶ 動けないのでだんだん身の回りのことができなくなる



統合失調症以外でも
一般に精神の症状があると・・・

大きな声を
上げて発散
する

身体が動い
てじたばた
する

体が震える

泣き出す

怖いので
怒ってしま
う

怖くて笑っ
てしまう

怖い時にする行動は？

怖い時にする
行動は人は皆
同じ

怖い時に、実は暴れたり、大きな声をあげたり、
泣いたり、喋りまくったりは人として当たりまえ

しかし、どうして感情
が溢れているかは
他人の心の中のことな
ので
理解できない

その結果

危ないやつ
怖い
おかしい

身体は動く見た目に分かりにくい障害
故に障害として認識されにくい
本人も人に助けを求めにくい

精神障害の特徴の大きな点は

感情が止まらな
かったり、感じな
くになってしまうこ
とが
この障害の特徴
コミュニケーション
に障害が出る



障害者でない人は誰でしょう？



どっちが障害者に見えますか？



何人健常者がいるでしょうか？

誰にでもおこりうるからこそ、
「出来ない」と言っている人に
「もっと頑張れ」とか「努力が足りない」とその人のせいにしやすい

差別

偏見

社会の精神障害者への
偏見や差別が強い
イメージが悪い

なぜそう思うのか



- ▶ 「精神障害者は危険な人」「犯罪を犯す人」・・・
- ▶ 実際のところ精神障害者の人の犯罪発生率は1%にも満たない。
- ▶ 300万人精神障害者がいたら事件を起こす人も中にいる
- ▶ けれど精神障害者だから犯罪を犯すというのは偏見・差別

マスメディアの影響

誤り！

精神障害が「障害」として正しく理解されていない

見た目にわかりにくい

偏見・誤解

本人もカムフラウトできない

精神障害者へのサポートが遅れている理由は

健常者であっても障害者であっても
自分がこれに困っているから助けて欲しいといっている

言えるような
世の中でない
といけない

しんどい時に親身に
接してくれる。
寄り添ってくれる
人

本来は障害があるなしに関係なく
誰もが必要なサポートをもらえる社会なら
障害があったとしてももっと生きやすい

精神障害の人へのサポート・配慮

車いすに乗った人のサポートは？

精神疾患の人へのサポートは？



見た目に分かりにくい障害はサポートが難しい

私の障害として欲しいサポート 自分の体験から

- ▶ 幻視・錯覚
- ▶ 斧が自分の胸を刺す
- ▶ 自分の手がナイフで切られたようにスバツとずれる
- ▶ 周囲の世界生きている感じがしない
- ▶ 幽体離脱
- ▶ 家から出られなくなる
- ▶ 動けなくて、トイレに行くのもしんどい
- ▶ 不安でパニックになる
- ▶ 発作的に飛び降りたくなる

強迫性障害

鬱

離人症

パニック障害



発病の時期

人混み怖い

環境の変化

電車に乗れない

ストレス

仕事のプレッシャー

他人との関わりが苦手

元々不安定

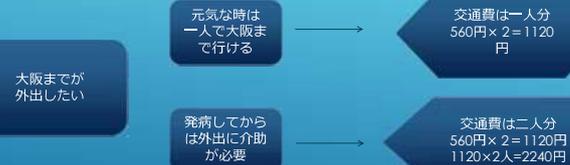
症状

- ▶ 1 しっかり話を聞いてくれる
- ▶ 2 頷いて聞いてくれる（受け入れてくれる安心感）
- ▶ 3 気遣ってくれる言葉（何かお手伝いしましょうか？）
- ▶ 4 具体的に教えてくれる（右道をまっすぐ行くとA5の前が券売機です）
- ▶ 5 わかりにくいところはパンフやメモをつかって示してくれる
- ▶ 6 メモを書くのでも、メモが必要かどうか聞いてくれる（乗客が主体になっている）



僕が安心できる接遇のポイント

電車に乗るとパニックになるので一人だと怖くて乗れない。
信頼関係のあるヘルパーと外出するとなんとか電車に乗れる



外出時に困ること

病気になったらなんで料金を二人分払わないといけないんだろうか



こんな意見があります

こんなことに困っている **不安・恐怖**

- ▶ しんどくて座りたいけれど「席代わって」と言いにくい。**ヘルプマーク**やアナウンスをして欲しい
- ▶ しんどいときはごまめに休みたいし、休める場所があるといいので**ベンチ**や**休憩室**を作って欲しい
- ▶ 調子の悪い時は文字が読めないので、**イラスト**や**マーク**を付けて欲しい。
- ▶ 案内の文字が大きいと**安心**
- ▶ 幻聴や強迫でホームから落ちそうになるので**ホームドア**を付けて欲しい

ホームは座と一緒危ない！



近鉄奈良駅 トイレのマークのでかさ



近鉄奈良線 優先席も広くマークもわかりやすい

こんなことに困っている **不安・恐怖**

- ▶ 電車が遅れた時は不安でパニックなので、どれくらいで着くか**アナウンス**して欲しい
- ▶ 長期入院して退院するとしばらくぶりに乗ると浦島太郎状態。ICカードの使い方や券売機の**使い方を分かりやすく書いて欲しい**。**読み取り**欲しい。
- ▶ 精神障害者も使える**介助者割引**を導入して欲しい



こんなことに困っている

- ▶ 駅に「コンシェルジュ」のような困った時に気軽に声をかけられる、かけてもらえる人が常にいたらいいと思う
- ▶ 駅員さんに話しかけた時に、そっけなかったり、無視されるととても不安なのでこちらに体を向けて顔を見て話を聞いて欲しい
- ▶ エレベーターの位置など音声案内で「この先何がある」と教えてくれると安心できる



聞いたら答えてくれるのだろうけれど、「わからないことはお気軽に聞いてください」と書いてあると自分も受け入れられている感じがして聞きやすい



ヘルプマークと優先席



ヘルプマーク。優先席のところに貼ってある。



神戸市営地下鉄海岸線



しずく川駅



株式会社電通さんの人権研修



阪急電車の車内広告

ヘルプマークを知っている一般の人が増えて席を譲ってもらえる機会が増えた

どうしたいか、聞いてください！

人それぞれ欲しいサポートは違う

切符を買うのを手伝って欲しい

個室で休みたい

声をかけて欲しい

教えてもらえれば手はいらない

個室は嫌だ人のいるところが安心

一人でやるから丁寧な案内が欲しい

移動の自由により
人生が広がる



～症状の不安定さを支える～



社会福祉法人ぶるぼの
吉川 ひとみ

はじめに ～お願い①～

「私の話」は、
「精神障害者全般に当てはまる
唯一の正解」ではありません！

健常者と同じで一人ひとりに個性があります

はじめに ～お願い②～

「理解者」になろうとする前に、
「もし自分が精神障害者
だったらどう感じるか？」
と考えてみてください。

はじめに ～お願い③～




1 image says more than a thousand words
百聞は一見に如かず

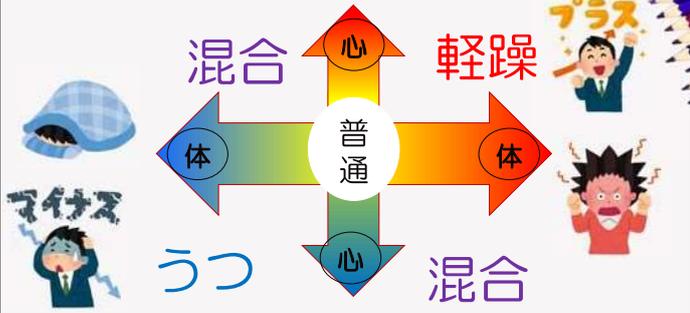
吉川ひとみ 自己紹介



- 双極性障害Ⅱ型（躁うつ病）
※約10年。障害のない世界／ある世界
- 障害者の就労をサポートする仕事に従事
- 自身の経験を元に、精神障害者の公共交通機関利用に関する講演や研修を行っている。
- 旅行が大好き！（公共交通機関利用）

双極性障害Ⅱ型って？

抑うつ状態と躁状態の2つの病層が不安定かつ周期的に交代する病気。



脳で起こっていること

1. 意識⇒意識の質が変化（はっきりしないなど）
2. 知的機能⇒情報処理能力低下
3. 記憶⇒保持・再生が困難
4. 知覚⇒情報を正常に認識できない（幻覚など）
5. 思考⇒思考過程・内容・表現の異常
6. 感情・気分⇒抑うつ、感情鈍磨、怒り、不安、爽快
7. 行動⇒精神症状の表れ



具体的な症状 ～軽躁～

基本的には陽気だけれど…

- 考えが次々に浮かび多弁になる
⇒話をしていると振り回される
- 注意力散漫になる
⇒事故や失敗に繋がりがやすい
- 怒りっぽく、イライラする
⇒対人関係のトラブルになりやすい
- 抑制がきかない、無分別など
⇒社会的損失を負いやすい



具体的な症状 ～うつ～

- 思考力・理解力の低下
⇒頭がボーっとして何も分からなくなる
- 不安と焦燥感が常にある
⇒パニックになりやすい
- 神経が過敏になる
⇒些細なことでイライラしたり恐怖を感じる
- 倦怠感
⇒動くのが億劫になる、動けない
- 自己肯定感が低い
⇒自信が無くおどおどしてしまう



具体的な症状 ～混合～

躁とうつの状態が同時に現れる状態

- 体はうつなのに心は躁
⇒しんどくてなにもできないのに、頭の中が忙しい
- 体は躁なのに心はうつ
⇒活発に喋り動いているのに、気分は死にそうに憂鬱である
- 自殺の危険性が高い



具体的な症状 ～いつも～

- 「普通」のときも含めて、次の困り事があります。
- とても疲れやすい（急変）
⇒基礎体力がない、常に気を張っている
 - 外的刺激に対する耐性の低下
⇒不安を感じやすい、パニックになりやすい
 - 優先順位（段取り）が付けられない



揺れる症状を安定させる

- ・服薬・通院
- ・体調・疲労の管理
- ・生活リズム
- ・精神面のコントロール
- ・ストレス対処

重要!



「揺れる」私にとっての バリア経験と望む配慮・支援

移動＝目的達成のための手段

バリア、達成度の尺度は？



・移動は、豊かな人生を享受するための手段！
⇒公共交通機関の使命は、それを支えること

困った経験（物理的バリア）

- ①路線図で金額を確かめてから機械で買う
- ②公式サイト（構内の案内など）が不十分
- ③無人駅、インターホン
- ④休憩できるスペースの有無と質
- ⑤ホームドアがない
- ⑥照明の明るさ、進行方向の認知
- ⑦ベビーカー、トランクケース
- ⑧知覚過敏（音や臭いに敏感）
- ⑨緊急時の情報
- ⑩路線図や乗換えのサイン
- ⑪冷房がきつい
- ⑫とにかく混みすぎている



最近、助かったこと



ふりがながあると、もっとよい

困った経験（心理的バリア）

- ①精神障害者⇒怖い・メンドクサイ
- ②冷遇、無愛想、差別的
- ③相談しても、分かってもらえない
- ④説明を聞いても、理解できない
- ⑤他の乗客とのトラブル
- ⑥ヘルプマークへの無理解
- ⑦パニックが起こった！





①精神障害者 ⇒怖い・メンドクサイ

- 尊厳をもった1人のお客様という認識を忘れない。
- 「言っても分からないだろう」とそんざいに扱ったり子ども扱いしない。
- 組織の全員が精神障害者に対する接遇の研修を受ける
⇒正しい知識を得る、活かす。
- 定期的にブラッシュアップやケース検討。
- 当事者と触れ合う機会を設ける



②冷遇、無愛想、差別的

- 障害者手帳を見せたときに他の乗客と同じように接する。
- 「ありがとうございます」、会釈など
- 顎で指示されたときは、障害者だから?とってしまう
- 障害者手帳を見せてから支払うのに手間取ることがある
⇒急かさないで欲しい



③相談しても分かってもらえない

- 緊張している
- 考えが上手くまとまらない。
- 言葉や文章が上手くでてこない。
- 同じ話を繰り返してしまう。
- 発話と思っていることが違う。



⇒リラックスした雰囲気でも優しく忍耐強く聴く。
⇒相手の気持ちを確認。「〇〇のことですか？」等
⇒具体的に「はい/いいえ」で答えられる提案。
⇒断片的な言葉からでも察して理解するよう務める
⇒会話が途切れても待つ。相手のペース
⇒補助ツールを使う

④説明を聞いても理解できない

- 聞き取れない話し方（尋問調、早口、淡々と業務的）
- 難解な用語。1文が長い。
- 頭に入らず忘れていく。
- 2人の人が同時に話しかける。
- 伝わっていないのに相槌を打ってしまう。

⇒優しくゆっくり丁寧にポイントを絞って話す。
⇒相手の理解を繰り返しかえし確かめながら説明
⇒抽象的な表現ではなく具体的な言葉を使う
⇒必要に応じて同行（たらいまわしはダメ）
⇒補助ツールを使う



⑤他の乗客とのトラブル

- うつときは行動が鈍く他の乗客をイライラさせる
- 躁のときは他の乗客の些細な言動が気になる

⇒両者の間に入り、関係調節をする。
⇒周囲の人に状況を説明し、障害のある人に状況が理解できるように説明する。
⇒1人では対応しない方がいいケースも。
⇒場の空気を乱さないよう心がける。
⇒落ち着くまで待つ。根気よさが必要。



⑥ヘルプマークの無理解

- 駅ポスター、車内ステッカー等
- 高齢者との「席の取り合い」
⇒ヘルプマークを知らない場合／知っていて敢えて
- ヘルプマーク＝「弱者であること」を晒す？
⇒攻撃の対象になる
⇒「ヘルプマーク保持者らしさ」とは
- 「席を譲る以外に何をしたら良いんだろう？」



⑦パニックになった！

- 動悸、胸の痛み、めまい、吐き気、息苦しさ、過呼吸、易怒性、泣く、大声、耳をふさぐ



- ⇒冷静に。一緒になって慌てない（30分前後で収まる）
- ⇒楽な姿勢（椅子に座りかがむ。頭を膝の間に入れる）
- ⇒息を吸うより、吐き切るよう
- ⇒やさしく寄り添う（怖がらせない）
- ⇒落ち着くのを待って安全（静か）な場所に誘導（そのことをきちんと説明）する。共感的態度。
- ⇒保護者、支援者への連絡の必要性を問う

まとめ

「見守り」は支援の第一歩



知的障害、発達障害の特性から生じる特徴的な行動を紹介する啓発ポスターの一部（横浜市港南区）

見守り⇒行動のサイクル



この繰り返しにより、自身の目を開き心を開く。

心のバリアフリー、これだけは。

- ① 精神障害者に関わる研修を受けている。
- ② 精神障害者に必要な配慮を理解している。
- ③ 当事者の尊厳を守ったコミュニケーション力がある。
(信頼関係の構築)



- 「自発的に気付いて声かけをする」
- 「目の前の一人に向き合って話す」
- 「リラックスした（優しい）雰囲気を作る
- 「ゆっくり丁寧に（具体的に）話す」
- 「くり返し（忍耐強く、様々な手法で）トライする」⇒「ありがとうございます」

少しずつでも継続することが大切

• その場その場で支援が上手くいかなかったとしても、焦ったり落胆しなくてもよい。→次に活かす、組織として動く

• 相談できる人（縦横斜めの関係）や学びの場を持つ。

• 保健所の保健師（精神保健にも知識があるので困ったときにどう対応するか聞くことができる）

• 「全てのお客様に通じること」だという認識。

⇒移動の権利は、生きるための全ての権利を支えるもの。

• セルフケア



ご清聴ありがとうございました。
もっと豊かな人生を！

(3) インクルーシブな復興まちづくりへの挑戦

ひとの復興

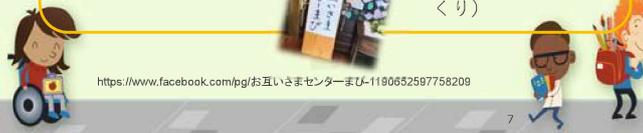
- ・ 移動支援(2018.11.1~)
- ・ まちコン(被災者交流会)の開催
- ・ 真備への想い数珠つなぎプロジェクト(被災者リレー式インタビュー)

まちの復興

- ・ 復興ビジョンアンケート(2018.11)
- ・ 復興ビジョンの提案(2018.12.19)
- ・ お互いさま復興を考える会(勉強会)
- ・ 住民主体の復興プロジェクト(減災への取り組み、居場所づくり)

お互いさま
センター
まび

<https://www.facebook.com/pg/oioisama-center-mabi/>



まちコン
(被災者交流会)
毎月第三土曜開催



復興ビジョンの提案 (2018.12.19)



真備連絡会が中心となって601名の「小さな声」を集めて、復興ビジョンとして提案
“お互いさま復興”



真備への想い数珠つなぎプロジェクト (リレー式インタビュー)

障害当事者との協働事業



(4) まちづくりの担い手としての当事者

- 参加者ではなく、“主催者側”で関わる(まちコン)
⇒「顔は知っていたけど、初めてちゃんと話かけられた」(まちコン・短冊コーナーを担当時)
- 聴かれるばかりでなく、“聴く側”に立つこと(リレー式インタビュー)
⇒「初めて避難所の様子を聞いた。勉強になった。」
「商工会の人と話するのは初めて。いろんな立場の人が復興に関わらないといけないと思った。」
- 一緒に行動する仲間がいること、支援者は仲間に入ること
⇒仲間、人薬

岡山マインドころ 矢吹さん
「災害があり不安な部分もあったが、災害後、地域の人達との関係が密になった。あいさつ程度だった人が、車に乗せてくれたり、話しかけてくれたりする機会があった。」
「復興ビジョンを提案したり、インタビューをして『真備のまちに帰ってきてほしい』という声を聞いていく中で、障害があろうが、高齢であろうが、子どもであっても、自分たちの力でまちを復興できると思えるようになってきて、まちづくりへの希望が支えてくれているように思う。」
(2019.01.25 岡山県福祉施設・事業所研究交流会 講演会記録より)

(5) まちづくりの役割

作業療法における「意味のある作業」

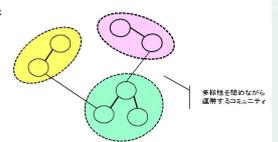
- ・ 対象者が自ら意思表示した作業
- ・ 対象者の生活史の中にある作業
- ・ それを行うことで新たな自分につながる作業

➔ まちづくりの現場

まちづくりに当事者が主体的に関わるには？
(インクルーシブな状況をつくる)

少数であっても同じカテゴリーに所属するもの同士が、苦勞を分かち合うための言語や仲間を獲得し、それぞれに表出できること。
そして少数派のカテゴリーが違いを認めたらうえ、つながることできる状況をつくること。

第三世代



平成 30 年度 バリアフリー推進勉強会

【東京会場】

第 50 回 平成 30 年 5 月 22 日 (火)

テーマ： : 空港のユニバーサルデザイン

第 51 回 平成 30 年 6 月 28 日 (木)

テーマ： 地域交通の提供と交流の拡大に対する効果と交流の拡大が健康に及ぼす影響

第 52 回 平成 30 年 7 月 25 日 (水)

テーマ： 平昌オリンピック・パラリンピック報告

第 53 回 平成 30 年 9 月 6 日 (木) 【国際セミナー】

テーマ： “インクルーシブリサーチ “の可能性 ～知的障害のある人との共同研究～

第 54 回 平成 30 年 12 月 7 日 (金)

テーマ： 観光とバリアフリー、ユニバーサルツーリズムを考える

第 55 回 平成 31 年 2 月 16 日 (土)

テーマ： 当事者の声を聴いてともに考える勉強会

ー公共空間編「手すりやトイレを中心に」ー

第 56 回 平成 31 年 2 月 28 日 (木)

テーマ： 2018 年度 西日本豪雨における被災地活動報告会

【関西会場】

第 7 回 平成 30 年 3 月 30 日 (金)

テーマ： 認知症者の外出と公共交通機関における対応

第 8 回 平成 30 年 10 月 12 日 (金)

テーマ： 誰もが利用しやすい公共空間でのトイレの整備について

第 9 回 平成 31 年 2 月 27 日 (水)

テーマ： 災害時（地震等）における移動困難者への配慮を考える

下記 URL のホームページにて公開しております。

http://www.ecomo.or.jp/barrierfree/benkyo/benkyo_top.html

本書の講演資料の著作権は、各講師等にあるため、無断での転載・複写・引用することを禁じます。

令和元年度 バリアフリー推進勉強会

令和2年3月発行

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団
〒102-0076 東京都千代田区五番町10番地 KUビル3F
電話：03-3221-6672（代表）FAX：03-3221-6674
URL：<http://www.ecomo.or.jp/>
